

【団体名】安城市立志貴小学校

【事業名】「志貴小梨園作り」

【事業の内容】

1 梨の秘密をみんなに広げよう

本校では3年生の「総合的な学習の時間」で地域の梨栽培の秘密を追究してきた。9月10日に、橋目町猪飼氏の梨園の一角を借用して4月から栽培活動を進めてきた梨の収穫を行った。1本の木から140個の梨を収穫することができ、児童は大きな感動を味わった。

栽培体験や梨のデザート作り、猪飼氏から教えていただいたことをもとにクイズや紙芝居、絵本にまとめ、「梨のお店屋さん」を開いて全校児童や保護者に発表する場をもった。これらの活動を通して、「志貴小の1本の梨の苗木を増やしてもっとたくさんの梨を育てたい」という思いを高め、梨園作りについて計画を立てることにした。

2 梨園を作ろう

猪飼氏宅へ行き、志貴小学校での梨園作りの相談をし、以下のことを教えていただいた。

- ・梨の苗木は特性上、12月に定植すること
- ・志貴小の空き地面積から考えて、あと2本～3本植樹できること
- ・苗木を育てるために、肥料を入れて土作りをすること
- ・よりたくさんの収穫をするためには、棚作りをするとよいこと

話を聞き、熱心にメモをとる児童の姿が見られた。また、苗木から収穫できる木になるまでには、10年近くの年月がかかることも知り、「簡単には収穫できないが、志貴小で梨の木をずっと育て、収穫できるようにしたい」という願いをもった。

12月16日、猪飼氏の梨園に肥料を入れ、次年度の栽培の準備をした。その後、本校で「梨の木を植える会」をもち、猪飼氏と共に3本の苗木を新たに植樹した。

植樹のためには30cmほどの深さの穴を掘らなければならなかったが、児童はシャベルや移植ごてを使って粘り強く取り組んだ。40分かかって植樹と肥料撒きを行い、縦一列にまっすぐに並んだ4本の苗木を見て、満足そうな児童の顔が見られた。1月20日に、苗の周りに堆肥を撒き、苗木の土の手入れを行った。その後さらに肥料を何度か撒き、立て札を作成して立て、梨園を完成させた。

3 わたしたちが作った梨園をみんなに知らせよう

梨の苗木を植えたことを全校や地域の方に知ってもらおうと、「梨の木だより」を作って配布することにした。たよりには児童のアイデアを生かし、こ

これまでの梨栽培の体験や植樹の時の様子を記事にすることにした。活動の写真なども取り込んで作成することができた。



梨のなえを うえました



わたしたちは小学校の地でなえを育てています。いかいさんに、手ついでをしていただいて立てた梨の木です。ひりょうまきもきちんとして、りっぱな梨ができるようにがんばりました。梨の木を学校にうえるのは、はじめてでした。3本もうえることができました。
(みさき)

いかいさんといっしょにあきづきのなえを3本うえました。ひりょうをまいて、わらをしいて、またひりょうをまきました。あきづきの木をうえた後、水をあげました。(あおい)

つかれたけれど、がんばった。ちゃんと育ってほしい。自分たちで植えたなえだから。
(ゆうせい)

いかいさんは、わたしたちの学校に「あきづき」をうえてくださいました。ひりょうをまいたとき、手のおいがかいだら、とてもくさかったです。(あん)

12月16日、梨の木を3本うえた。1本は先にうえてあった。シャベルで梨の木をうえるためにあなをほった。1回目はバケツでひりょうをまいて、2回目はシャベルでひりょうをまいた。
(かなと)

志貴小梨園は、安城市レジ設計院産協同組合（協賛団体）愛知中央農業協同組合（ヘアサロニスズキ 株式会社ヤマナカ ユニコー株式会社）から環境活動助成を受けています。

【成果・課題】

草だらけの空き地スペースに梨を植樹し、未来の梨園に思いを馳せながら活動することができた。植樹の活動を通して、総合学習で学んできたことを生かし、学びを広げられたこと、また、地域の梨農家の方とのかかわりを深められたことは成果である。今後も、長期的な見通しをもって梨農家の方の助言を受けながら苗木を育てていきたい。棚作りについては、JA愛知中央梨部会の方に話をうかがって予算を出していただき、次年度以降設置に向けて取り組んでいきたい。